

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-133	24-067	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
<b>題名（原題／訳）</b>		
<p>Early and risky adolescent alcohol use independently predict alcohol, tobacco, cannabis and other drug use in early adulthood in Ireland: a longitudinal analysis of a nationally representative cohort</p> <p>アイルランドにおける早期およびリスクの高い青年期のアルコール使用は、成人初期期におけるアルコール、タバコ、大麻、その他薬物使用をそれぞれ独立して予測する：全国代表コホートの縦断分析</p>		
<b>執筆者</b>		
Brennan MM, Mongan D, Doyle A, Millar SR, Cavallaro M, Zgaga L, et al.		
<b>掲載誌</b>		
BMC Public Health. 2025 Mar 24;25(1):1129. doi: 10.1186/s12889-025-22262-w.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
初回飲酒年齢、アルコール使用障害識別テスト、タバコ、大麻、薬物、青年、若年成人		40128701
<b>要旨</b>		
<p><b>背景：</b>青年早期におけるアルコール摂取およびリスクの高いアルコール使用は、それぞれ成人期のアルコール消費と関連していることが報告されている。しかし、これらの行動を同時に認める場合、後の人生で物質使用を独立して予測するかどうかは不明であり、アルコール以外の物質との関連を調査した研究は限られている。本研究では、初回飲酒年齢および青年期のリスクの高いアルコール使用と、成人初期期におけるアルコール、タバコ、大麻、その他薬物使用との縦断的関連を検討し、公衆衛生介入の重要な時期を特定することを目的とした。</p> <p><b>方法：</b>「Growing Up in Ireland」は全国代表コホートである。ロジスティック回帰分析（サーベイ加重）により、初回飲酒年齢および 17 歳時点のリスクの高いアルコール使用（AUDIT スコア）が、20 歳時点での高リスクなアルコール使用（AUDIT &gt;15）、タバコ、大麻、その他薬物使用を独立して予測するかを検討した。モデルは年齢、性別、学力、性格、心理的要因、社会経済的地位、家族・友人・地域の薬物使用を調整因子とした。</p> <p><b>結果：</b>分析対象は 4554 名（女性 49.8%）であった。14 歳以下での初回飲酒は 27%に認められた。20 歳時点で、高リスクなアルコール使用は 14%、タバコ使用は 38%、大麻使用は 24%、その他薬物使用は 28%であった。14 歳以下の初回飲酒者と比較して、より遅い初回飲酒年齢は、20 歳時での各物質使用のオッズ比を段階的に減少させた。17 歳時に高リスクのアルコール使用者は、低リスク使用者と比較して、20 歳時点でタバコ（aOR = 2.1, 95% CI: 1.3–3.3）およびその他薬物使用（aOR = 2.5, 95% CI: 1.6–4.1）のオッズが約 2 倍、高リスクアルコール使用のオッズが約 11 倍（aOR = 11.5, 95% CI: 7.0–18.6）であった。</p> <p><b>結論：</b>初回飲酒年齢および青年期のリスクが高いアルコール使用は、広範な調整を行っても成人初期の物質使用をそれぞれ独立して予測した。早期飲酒に関連する要因への介入と、高リスクで飲酒する青年への支援が、将来の物質使用予防に重要である。</p>		